

第5学年2組 学級活動（1）指導案

平成29年 5月29日(月)

指導者

1 議題 八頭高生のお兄さんお姉さんと交流しよう

2 議題について

（1）議題選定までの経過

これまで児童は、「5年2組よろしくねの会をしよう」「係について決めよう」の議題で話し合ってきた。高学年となり、楽しく豊かな学級や学校生活をつくっていくためには、学級会で何を話し合い、自分はどんな役割を果たすべきなのか考え実践しているところである。

本議題は、毎年、新体力テストの補助をしてくれる八頭高生との交流の時間を有意義なものにするために、自分たちにできることを話し合いたいという思いが込められた議題である。計画委員では、新体力テストでお世話になる八頭高生と交流を深めるような遊びや工夫を考えることで、相手に感謝の気持ちを伝えることができるのではないかと、また、そのことがより学級の仲間との絆を深めることにつながるのではないかとという話し合いになった。そこで、今回の議題である「八頭高生のお兄さんお姉さんと交流しよう」が選定された。

（2）児童の実態と指導観（男子12名、女7名 計19名）

本学級には、学校生活を楽しみたいという前向きな気持ちを持っている児童が多い。高学年の仲間入りをして、学校全体をリードしたり下学年のことを気遣ったりすることに対して、意欲的に取り組む姿が見られる。代表委員会などの場でも、学校がよりよくなるために自分たちにできそうなことはないか考え発言できる児童が多い。しかし、決まったことには素直に従うものの、自分に自信が持てず受身的な姿勢で生活する児童もあり、よりよい学級生活をつくっていこうと積極的に取り組む児童との差が大きい。

学級での話し合い活動では、話し合いの流れを把握して、提案理由やめあてを根拠に自分の意見を伝えるということについては身に付いてきている。しかし、「分かり合う」や「生かし合う」の段階では、出された考えを深く理解していないためにその考えをさらに深めていくことができなかつたり、話し合いの中で、どこを焦点化していくと提案理由により近づいていくのかを見定めたりするまでには至っていない。そこで、「分かり合う」の段階では、意見に即して発言したり、出された意見の真意をよく確かめ、それらを生かす方法を考えたりするように指導しているところである。また、「生かし合う」の段階では、工夫の具体化、相手意識などの視点を持たせることで話し合うべきことを焦点化していく。話し合いを通して、自分たちの力で学級をよりよいものにしていこうとする姿を目指している。

指導にあたっては、昨年度までの八頭高生との交流をふり返り、交流会の流れなど見通しを持たせた上で話し合いに向かわせる。また、事前に本学級担当になっている八頭高生の紹介ビデオを見せ、より相手意識を高めておく。話し合いや実際の交流を通して、体力テストの補助をしてくれる八頭高生に感謝の気持ちを伝えるのは勿論であるが、学級のよさを生かしたり、これまでの活動経験上での課題を克服したりして活動しようとする意識を持たせていきたい。そのために、輝きノート（学級活動ノート）をふり返り、学級のよさや課題について考えることができる時間を設ける。本時では、柱1で、交流でどんな遊びをするかについて話し合い、柱2では、「感謝」「5の2の力をさらに高める」をキーワードに楽しく交流するための工夫について話し合う。集団決定をして活動に取り組むことによって、互いによさを認め合い、励まし合いながら生活していく姿を期待している。話し合いのよりどころとなるキーワードについては、あらかじめ計画委員会で練り上げておく。「みんなで盛り上げる」「みんなで協力する」などの意見が出されることも予想されるが、具体的に何をどのようにすればそれらのことが実現できるのか、工夫の具体化に対する助言を行う。本時までには、計画委員会には、学級会ノートをもとに事前にフロアの意見を把握させ、予想される意見を分類・整理した板書計画を立てるよう指導する。さらに、話し合いの進め方についてシュミレーションをして、流れや時間について確認し、自信を持って話し合いを進めていくことができるようにしたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 活動の経過

	月 日 (曜日)	活動の場	活動主体	活動の内容
事前	5月15日 (月)	休憩時間	計画委員会	議題の選定
	5月17日 (水)	朝の会	全員	学級会の予告
	5月18日 (木)	チャレンジの時間	全員	議題の決定・提案理由の確認・学級会ノートに記入
	5月19日 (金)	休憩時間	計画委員会	学級会ノートの集計
	5月22日 (月)	チャレンジの時間	全員	柱1 分かり合うに向けてノート記入
	5月23日 (火)	チャレンジの時間	全員	柱1 分かり合う
	5月24日 (水)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	5月25日 (木)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	5月26日 (金)	給食時間	計画委員会	進行打ち合わせ
本時	5月29日 (月)	学級活動	全員	学級会
事後	6月9日 (金)	昼休憩	全員	八頭高生との交流、ふり返り

5 本時のねらい

- ・議題について自分の意見をしっかりと持ち、自分の考えと比べながら友達の見解を聞いた
り、それをもとに、根拠のある建設的な意見を言ったりしようとする。
- ・八頭高生と交流を深めるような遊びの内容や工夫を決めることができる。

6 本時の活動計画

第4回 学級会 個人ノート

第 4 回 学級会 個人ノート 名前 ()

議題 <u>八頭高生のお兄さんお姉さんと交流しよう</u> 5月 29日 (月) 5 校時							
提案理由	<p>これまで毎年、八頭高生のみなさんにお世話になって体カテストを行ってきました。今年も6月にある体カテストが楽しみです。そこで、八頭高生との交流の時間に楽しい遊びをすれば八頭高生といい思い出ができ、5の2のカも高まると思ってい案しました。</p>						
話し合いのめあて	・八頭高生と交流を深める遊びの内容と工夫やルールについて考えよう。						
決まっていること	・1/4(金)の昼休けい、準備時間はチャレンジタイム2回分 ・プログラム2のみんなですすむ遊びを決める(20分間)・場所は外(雨のときはこまに後日決める)						
役割	<table border="1"> <tr> <td>司会</td> <td>黒板記録</td> <td>黒板記録</td> </tr> <tr> <td>司会</td> <td>黒板記</td> <td>(70アと黒板サポート)みんな</td> </tr> </table>	司会	黒板記録	黒板記録	司会	黒板記	(70アと黒板サポート)みんな
司会	黒板記録	黒板記録					
司会	黒板記	(70アと黒板サポート)みんな					
話し合うこと	自分の考え・理由						
柱1 (15) 分	<p><u>比べ合う</u> ...もしもあげる意見に反対意見がある場合は、解決方法はないかフロアにたずねる。</p> <p><u>まとめる</u> ...合意意見が出たら、本当にできるかどうか(時間など)フロアにたしかめる。</p>						
柱2 (20) 分	<p><u>出し合う</u> ...もしも意見が出にくかったら、1分-7タイムを入れる</p> <p><u>分かり合う</u> ...質問をし合い、みんなが出された考えを分かるようにする。(黄)</p> <p><u>生か合う</u> ...くわしく話し合う所を見つけ、それ以外の部分は役割分担後に決めてもらう。(赤)</p> <p><u>まとめる</u> ...まとめる意見を発表してもらう。</p>						
振り返り◎・○・△・▲	自分の役割・実行内容						
<p>① 自分の考えを前もってまとめておいた。</p> <p>② 提案理由やめあてを考えて発言した。</p> <p>③ 友だちの意見をしっかりと聞いた。</p> <p>④ 自分もよくて、みんなもよい解決ができた。</p> <p>⑤ 前の自分よりよかった・がんばった。</p>							
がんばりたいこと							

7 教師の指導計画

話し合い順序	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉		
2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由とめあての確認 決まっていること 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてがはっきり言えるように指導しておく。 提案理由の3つのキーワードをおさえ、話し合いを進めていくように助言する。 	
5 話し合い (1)柱1 どんな遊びにするか ・比べ合う ・まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 事前に学級会ノートに書いたものを計画委員と集約して、「分かり合う」はチャレンジタイムに行う。 「分かり合う」の段階では、黒板に出ている意見のよさを出したり質問したりして、全員が共通理解したうえで「比べ合う」に移ることができるように指導する。 「まとめる」の段階でなかなか決定ができない場合には、今までに経験したまとめ方のどれかで決定することができないか投げかける。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの進め方について理解している。 <p>〈観察〉</p>
(2)柱2 交流を深める遊びにするための工夫 ・出し合う ・分かり合う ・生かし合う ・まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 黒板係は、意見を分類・整理しながら黒板に短冊を貼るよう指導しておく。適時、教師が指導や補助に入り、黒板を構造化できるようにする。 「分かり合う」の段階では、出された意見に質問をして、友達の考えを理解したり詳しくしたりすることができるようにする。 「生かし合う」の段階では、どこを優先的に話し合っておくべきなのか決め、話し合うことができるようにする。必要であれば、論点の整理を、教師主導で行う。 工夫の具体化、相手意識の視点を持った話し合いになるように助言する。 「まとめる」の段階では、あげていいものと、そうでないものをはっきりと整理させまとめることができるように、事前に計画委員に指導しておく。 	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案理由に沿って交流を深める遊びにするための工夫を考え、友達と比べながら聞いたり言ったりしている。 <p>〈観察・学級会ノート〉</p>
6 決まったことの発表		
7 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由を意識した発言や建設的な意見を出した児童を賞賛したり、計画委員を労ったりするとともに、今後の話し合い活動の中でがんばってほしいことを指導して、次時への意欲付けとする。 	
8 終わりの言葉		

8 事後指導

- 準備や活動の中で、児童が前向きに取り組む姿や協力して取り組む姿を見つけ、賞賛していく。
- 活動後振り返りを行い、今回の活動の達成感を共有するとともに、今後の活動に向けての意欲につなげる。